

令和5年度
(2023年度)

第1回横須賀市国民健康保険
運 営 協 議 会 資 料

令和5年(2023年)8月14日(月)

民生局健康部
健康保険課・健康管理支援課

議題1 令和4年度特別会計国民健康保険費決算(案)について

〈歳入〉

科 目 (款 ・ 項 ・ 目 ・ 節)	予 算 現 額 (A)	決 算 見 込 額 (B)	増 減 (B) - (A)
1 国民健康保険事業収入	7,877,832,000	7,806,677,799	△ 71,154,201
1 国民健康保険料収入	7,877,832,000	7,806,677,799	△ 71,154,201
1 保険料収入	7,877,832,000	7,806,677,799	△ 71,154,201
1 一般被保険者分	7,877,687,000	7,806,477,364	△ 71,209,636
2 退職被保険者等分	145,000	200,435	55,435
2 使用料及び手数料	30,000	32,700	2,700
1 手数料	30,000	32,700	2,700
1 証明手数料	30,000	32,700	2,700
3 国庫支出金	58,000	1,594,000	1,536,000
1 国庫補助金	58,000	1,594,000	1,536,000
1 疾病予防対策事業費等補助金	58,000	45,000	△ 13,000
2 国民健康保険災害等臨時特例補助金	0	20,000	20,000
3 社会保障・税番号制度システム整備費補助金	0	1,529,000	1,529,000
4 県支出金	30,397,996,000	29,246,323,313	△ 1,151,672,687
1 県補助金	30,397,996,000	29,246,323,313	△ 1,151,672,687
1 保険給付費等交付金	30,395,857,000	29,244,708,313	△ 1,151,148,687
1 保険給付費等交付金(普通交付金)	29,816,326,000	28,728,064,313	△ 1,088,261,687
2 保険給付費等交付金(特別交付金)	579,531,000	516,644,000	△ 62,887,000
2 健康増進事業費補助金	2,139,000	1,615,000	△ 524,000
1 健康増進事業費補助金	2,139,000	1,615,000	△ 524,000
5 繰入金	3,462,674,000	3,416,010,996	△ 46,663,004
1 一般会計繰入金	3,462,674,000	3,416,010,996	△ 46,663,004
1 一般会計繰入金	3,462,674,000	3,416,010,996	△ 46,663,004
6 繰越金	1,362,238,000	1,362,238,195	195
1 繰越金	1,362,238,000	1,362,238,195	195
1 繰越金	1,362,238,000	1,362,238,195	195
7 諸収入	72,077,000	102,482,328	30,405,328
1 延滞金及び過料	22,210,000	31,274,796	9,064,796
1 延滞金	22,209,000	31,274,796	9,065,796
2 過料	1,000	0	△ 1,000
2 市預金利子	1,000	1,186	186
1 市預金利子	1,000	1,186	186
3 雑収入	49,866,000	71,206,346	21,340,346
1 返納金	28,452,000	32,074,928	3,622,928
2 雑収入	21,414,000	39,131,418	17,717,418
1 雑収入	21,414,000	39,097,598	17,683,598
2 国保事業費納付金返還金	0	33,820	33,820
7 財産収入	2,000	1,249	△ 751
1 財産運用収入	2,000	1,249	△ 751
1 利子及び配当金	2,000	1,249	△ 751
歳入合計	43,172,907,000	41,935,360,580	△ 1,237,546,420

<歳出>

(単位 円)

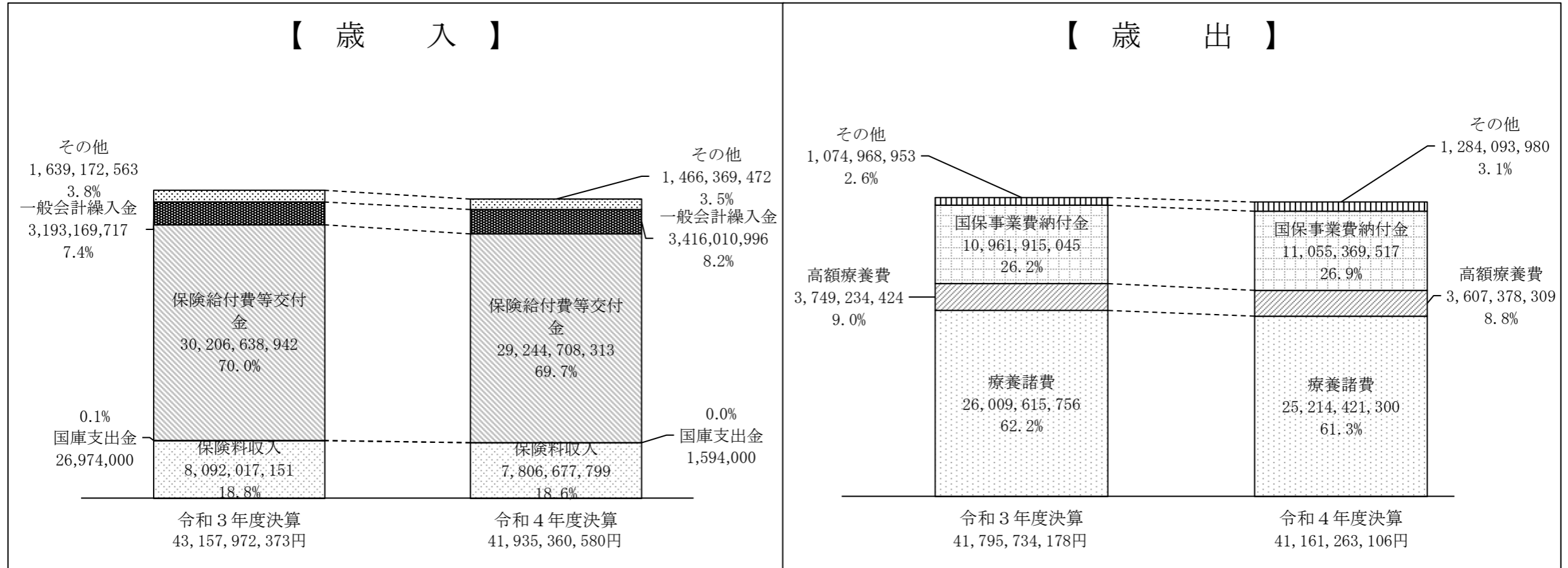
科 目 (款 ・ 項 ・ 目 ・ 細 目)	予 算 現 額 (A)	決 算 見 込 額 (B)	増 減 (A) - (B)
1 国民健康保険事業費	42,351,929,241	41,161,263,106	1,190,666,135
1 国民健康保険総務費	612,751,241	574,378,034	38,373,207
1 事務費	611,756,241	573,856,516	37,899,725
1 給与費	276,307,000	269,222,549	7,084,451
99 事務費等	335,449,241	304,633,967	30,815,274
2 運営協議会費	995,000	521,518	473,482
2 国民健康保険運営協議会運営費	995,000	521,518	473,482
2 保険給付費	30,017,516,000	28,947,344,102	1,070,171,898
1 療養諸費	25,957,436,000	25,214,421,300	743,014,700
2 療養給付費等	25,873,863,000	25,145,333,972	728,529,028
3 診療報酬審査支払手数料	83,573,000	69,087,328	14,485,672
2 高額療養費	3,905,138,000	3,607,378,309	297,759,691
2 高額療養費	3,905,138,000	3,607,378,309	297,759,691
3 移送費	201,000	24,100	176,900
2 移送費	201,000	24,100	176,900
4 出産育児諸費	101,691,000	89,821,310	11,869,690
2 出産育児一時金	101,640,000	89,783,090	11,856,910
3 支払手数料	51,000	38,220	12,780
5 葬祭諸費	33,050,000	29,700,000	3,350,000
2 葬祭費	33,050,000	29,700,000	3,350,000
6 傷病手当金諸費	20,000,000	5,999,083	14,000,917
1 傷病手当金	20,000,000	5,999,083	14,000,917
3 保健事業費	315,493,000	233,719,818	81,773,182
1 特定健康診査等事業費	307,835,000	227,341,842	80,493,158
1 特定健康診査等事業費	307,835,000	227,341,842	80,493,158
2 保健衛生普及費	7,658,000	6,377,976	1,280,024
2 保健衛生普及事業費	7,658,000	6,377,976	1,280,024
4 諸支出金	34,479,000	34,132,386	346,614
1 諸支出金	34,479,000	34,132,386	346,614
2 保険料過誤納返還金	34,479,000	34,132,386	346,614
5 国民健康保険事業費納付金	11,055,370,000	11,055,369,517	483
1 国民健康保険事業費納付金	11,055,370,000	11,055,369,517	483
6 基金積立金	316,320,000	316,319,249	751
1 国民健康保険費基金積立金	316,320,000	316,319,249	751
2 予備費	820,977,759	0	820,977,759
1 予備費	820,977,759	0	820,977,759
歳出合計	43,172,907,000	41,161,263,106	2,011,643,894

令和5年度への繰越額

774,097,474円

令和3年度・令和4年度 特別会計国民健康保険費 決算（見込）額の比較

(単位 円)



令和4年度歳入歳出差引額			
歳入決算見込額	—	歳出決算見込額	
41,935,360,580円	—	41,161,263,106円	= 774,097,474円

(別冊)

議題2 国民健康保険第3期データヘルス計画について

基礎分析結果 (7月末時点)

第1章 横須賀市国民健康保険の現状と特性

本章は、横須賀市国民健康保険（以下、「国保」とする）の健康課題を明確にすることを目的とします。レセプトデータから医療費支出の推移やその内訳を分析し、医療費を引き上げている主な要因を見極めていきます。さらに、特定健診及び特定保健指導に関するデータを分析し、健康状況や生活習慣病の罹患状況などを分析し、現状を明らかにしていきます。

1 現状の把握及び背景の整理

(1) 人口と国保被保険者の特徴

横須賀市（以下、「本市」とする）の令和5年4月1日時点の人口は385,485人です。本市の人口のうち125,227人（32.5%）が65歳以上、72,052人（18.7%）が75歳以上であり、神奈川県（以下、「県」とする）と比較するとどちらの割合も高くなっています。

国保被保険者の高齢化率も43.5%と県よりも高くなっています。

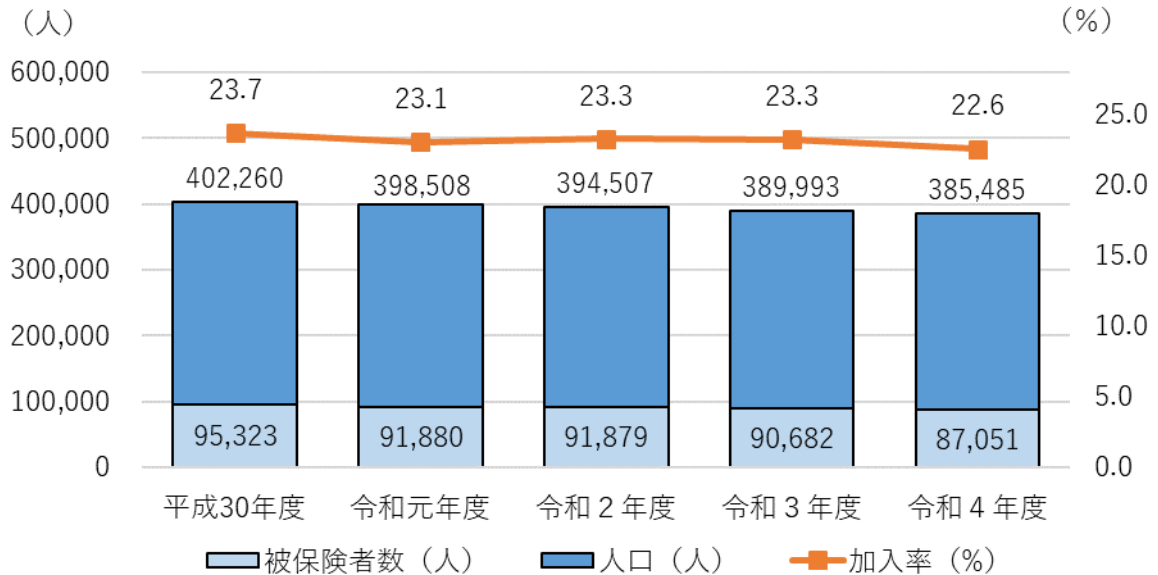
		横須賀市		神奈川県	
		人数（人）	割合（%）	人口（人）	割合（%）
人口構成	総人口	385,485	100.0	9,023,259	100.0
	75歳以上	72,052	18.7	1,201,665	13.3
	70-74歳	30,337	7.9	597,514	6.6
	60-69歳	46,215	12.0	995,332	11.0
	50-59歳	57,800	15.0	1,304,363	14.5
	40-49歳	50,332	13.1	1,410,694	15.6
	30-39歳	35,522	9.2	1,050,871	11.6
	20-29歳	36,323	9.4	965,808	10.7
	10-19歳	33,251	8.6	796,930	8.8
	0-9歳	23,653	6.1	700,082	7.8
	再掲	65歳以上 (高齢化率)	125,227	32.5	2,308,578
国保	国保被保険者数 と加入率	87,051	22.6	1,802,424	20.0
	再掲	65歳以上 (高齢化率)	37,893	43.5	696,077

出典：横須賀市の人口-住民基本台帳（令和5年4月1日時点）横須賀市の国保被保険者-KDB 人口及び国保被保険者の状況、神奈川県の人口、国保被保険者数-KDB 人口及び国保被保険者の状況

(2) 人口・国保被保険者・国保加入率の推移

- ① 本市の令和5年4月1日時点の人口は385,485人、国保被保険者数は87,051人です。
本市の人口と国保被保険者数ともに平成30年度以降、毎年減少しています。
- ② 国保被保険者の減少は、国保加入者の割合が高い70-74歳が後期高齢者医療に移行する影響が大きいと考えられます（p3「国保被保険者の性・年齢階層別推移」参照）。
- ③ 国保加入率について、令和元年度から令和2年度にかけて増加していますが、全体的に減少傾向にあります。

人口・国保被保険者・国保加入率の推移

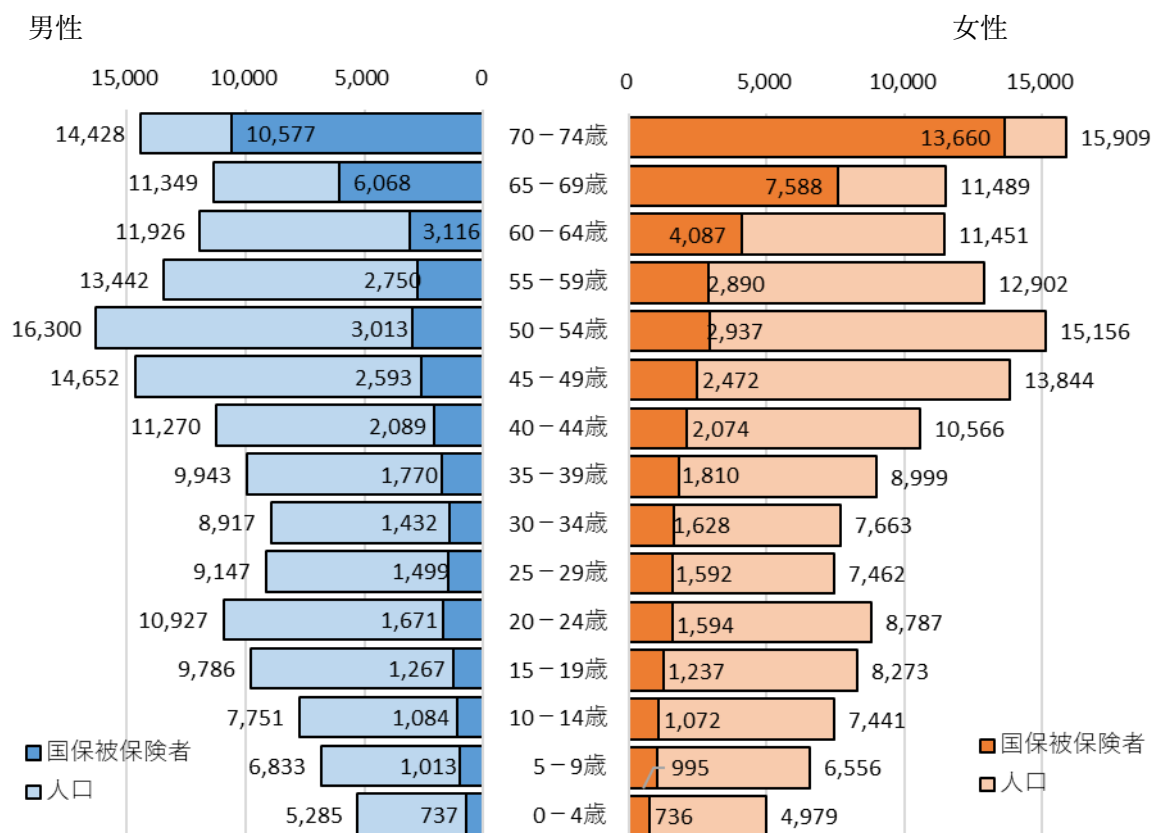


出典：人口-住民基本台帳（令和5年4月1日時点）
国保被保険者-KDB 人口及び国保被保険者の状況

(3) 国保被保険者の性・年齢階層別推移

- ① 人口（令和5年4月1日時点）と比較すると高齢になるにつれて、被保険者の割合が高くなっており、65-69歳に到達した時点で被保険者とそうでない人の割合が逆転しています。
- ② 国保被保険者数と人口のグラフの形状（人口ピラミッド）が異なり、人口の形状は一部がつぼ型様になっており、結果的に国保加入率が各年代でバラつきが出ています。

国保被保険者の性・年齢階層別推移



出典：KDB 人口及び国保被保険者の状況、人口-住民基本台帳（令和5年4月1日時点）

国保被保険者の性・年齢階層別加入率

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
男性	13.9%	14.8%	14.0%	12.9%	15.3%	16.4%	16.1%	17.8%
女性	14.8%	15.2%	14.4%	15.0%	18.1%	21.3%	21.2%	20.1%

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
男性	18.5%	17.7%	18.5%	20.5%	26.1%	53.5%	73.3%
女性	19.6%	17.9%	19.4%	22.4%	35.7%	66.0%	85.9%

出典：KDB 人口及び国保被保険者の状況、人口-住民基本台帳（令和5年4月1日時点）

2 国保データベース（KDB）を用いた医療費の状況

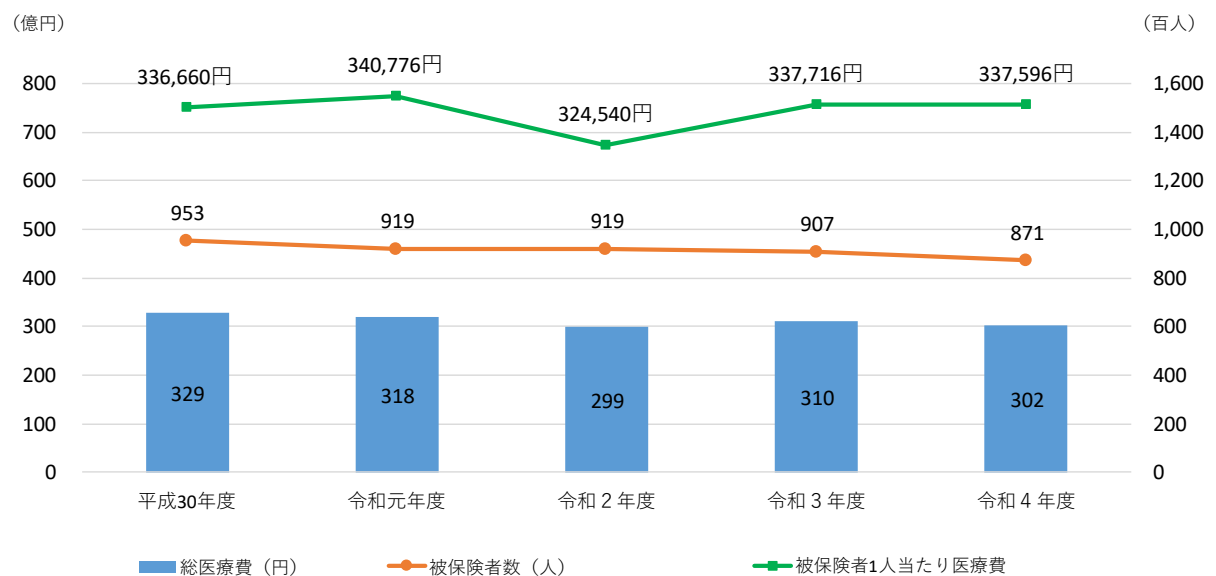
（1）国保データベース（以下、「KDB」とする）を用いた分析について

神奈川県国民健康保険団体連合会（以下、「国保連」とする）が管理・運営する KDB データを用いて、医療費の分析をします。経年的な変化だけでなく、本市と、県、国、同規模自治体とを比較して、多面的な分析をします。

（2）総医療費と国保被保険者数、国保被保険者 1 人当たり医療費の推移

- ① 総医療費は令和 2 年度の減少幅が例年に比べて多く、令和 2 年度から令和 3 年度にかけては増加がみられますが全体的に減少傾向にあります。令和 4 年度の総医療費は平成 30 年度の 329 億円から 27 億円減少して、302 億円となっています。
- ② 国保被保険者 1 人当たり医療費は令和 2 年度に減少し、令和 3 年度に再び増加したあと、令和 4 年度はわずかに減少しています。

総医療費・国保被保険者数・国保被保険者 1 人当たり医療費の推移

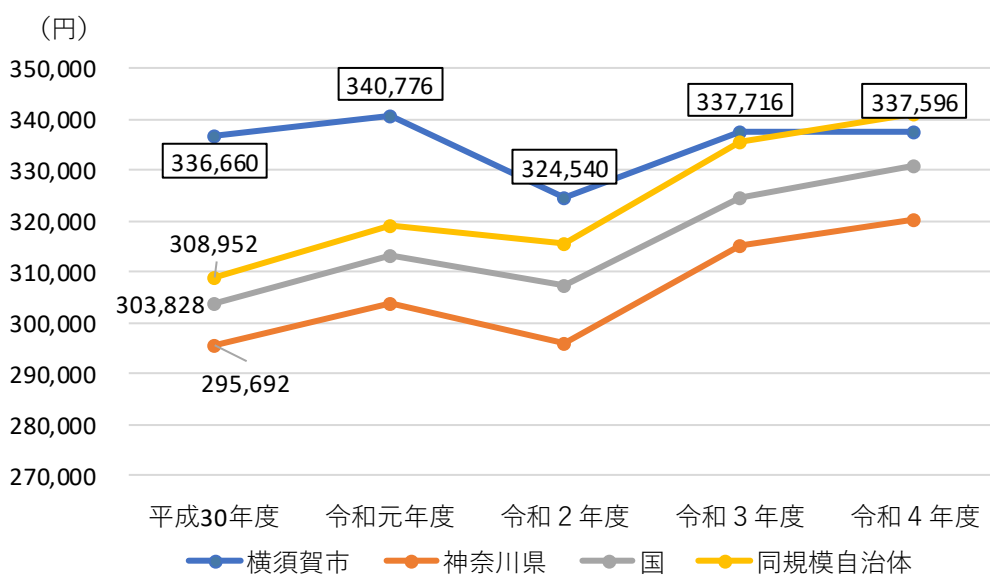


出典：KDB 地域の全体像の把握

(3) 国保被保険者1人当たり医療費の他自治体等との比較

本市、県、国、同規模自治体ともに1人当たり医療費は平成30年度から令和元年度にかけて増加していますが、令和元年度から令和2年度にかけては減少がみられます。令和4年度について、本市は同規模自治体に比べ低い数値となりましたが、県、国を上回っています。

1人当たり医療費（年間）の推移と比較

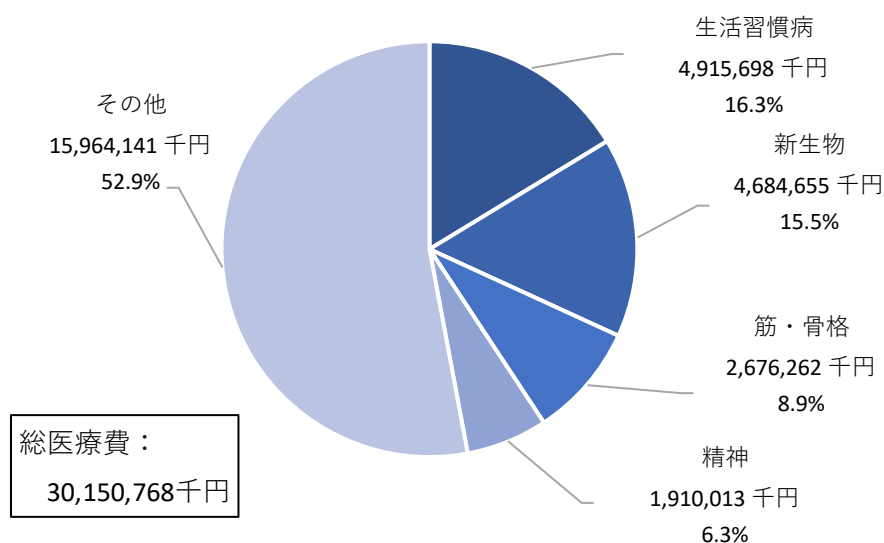


出典：KDB 地域の健康課題

(4) 総医療費・1人当たり医療費に占める生活習慣病の医療費の割合

- ① 令和4年度の総医療費（約301億円）のうち、生活習慣病の医療費は約49億1,570万円※となっており、16.3%を占めています。総医療費における疾患別（大分類）の内訳については、「(3) 疾病細分類別の医療費」（p11）を参照ください。

総医療費に占める生活習慣病医療費割合

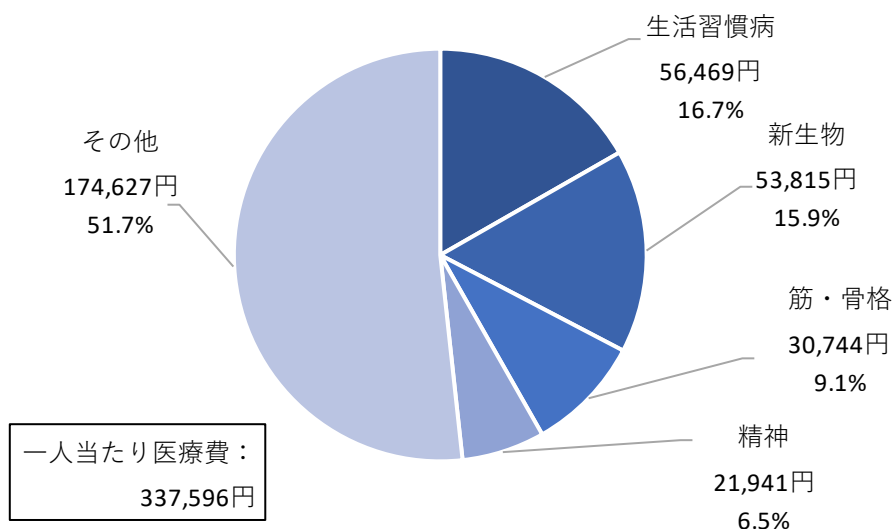


出典：KDB 地域の全体像の把握

※生活習慣病の医療費の算出は KDB データを用いて、「高血圧症」、「糖尿病」、「脂質異常症」、「狭心症」、「脳梗塞」、「脳出血」、「心筋梗塞」、「動脈硬化症」、「脂肪肝」、「高尿酸血症」を合計しています。

- ② 令和4年度の1人当たり医療費は337,596円です。このうち「生活習慣病」の1人当たり医療費は56,469円※となります。その他は「新生物」(15.9%)、「筋・骨格」(9.1%)、「精神」(6.5%)、「その他」(51.7%)となります。

1人当たり医療費に占める生活習慣病医療費割合



出典：KDB 地域の全体像の把握

※1人あたり医療費と、総医療費における各疾病が占める割合を基に算出したもの

- ③ 生活習慣病の疾患別医療費では、糖尿病、高血圧症、脂質異常症の順に割合が高くなっています。上記3疾患は脳梗塞、動脈硬化症等の他の生活習慣病のリスクを増加させるので、その対策を充実させる必要性は高いと考えます。

生活習慣病の疾患別医療費

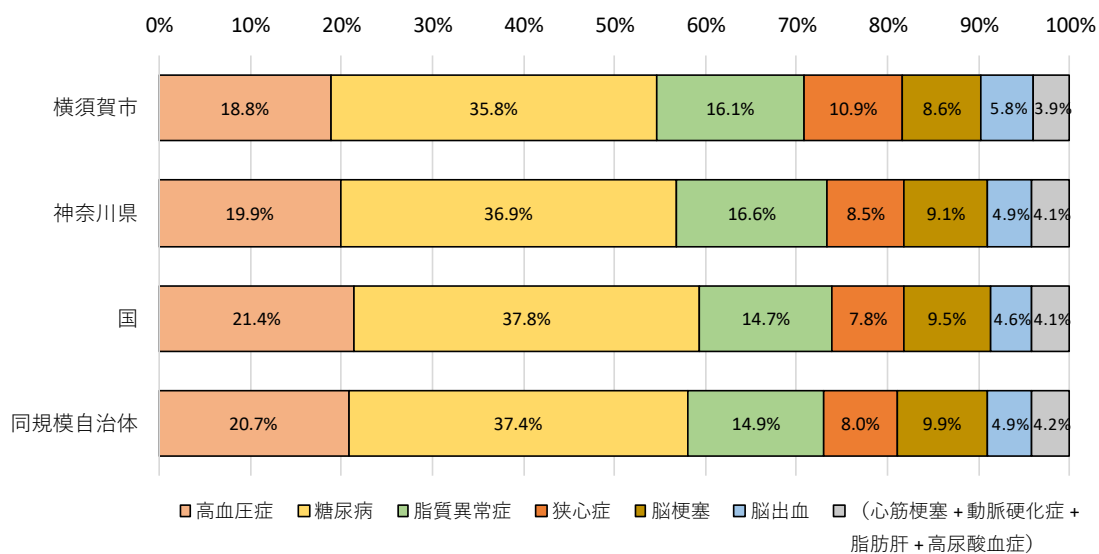
生活習慣病名	生活習慣病総医療費の内訳 (千円)	1人当たり医療費 (円)	割合
糖尿病	1,760,072	20,219	35.8%
高血圧症	925,764	10,635	18.8%
脂質異常症	793,099	9,111	16.1%
狭心症	535,011	6,146	10.9%
脳梗塞	423,267	4,862	8.6%
脳出血	285,413	3,279	5.8%
心筋梗塞	117,299	1,347	2.4%
動脈硬化症	45,233	520	0.9%
脂肪肝	18,324	210	0.4%
高尿酸血症	12,217	140	0.2%
合計	4,915,698	56,469	

出典：KDB 地域の全体像の把握

(5) 生活習慣病の医療費の他自治体等との比較

生活習慣病の疾患別医療費割合では、県、国、同規模自治体とも、高血圧症、糖尿病、脂質異常症といった生活習慣病の基礎疾患が占める割合が高くなっています。

生活習慣病の疾患別医療費割合

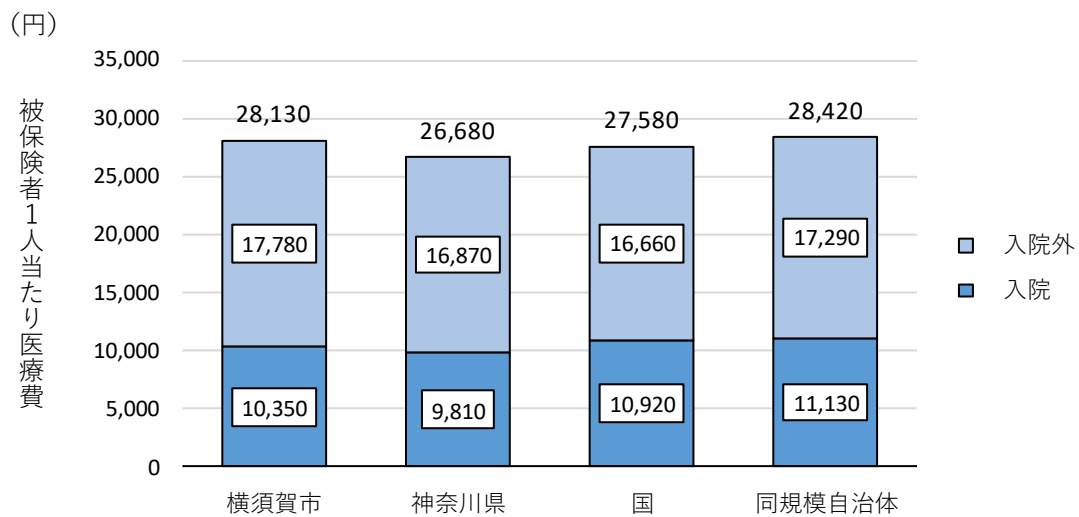


出典：KDB 地域の健康課題

(6) 医療費の内訳（入院、入院外）（月額）

令和4年度の月額の1人当たり医療費は入院外（17,780円）、入院（10,350円）を合わせて28,130円となり、同規模自治体より低い数値となりましたが、県、国よりも高い傾向にあります。

月額の1人当たり医療費の比較（入院、入院外）



出典：KDB 地域の全体像の把握

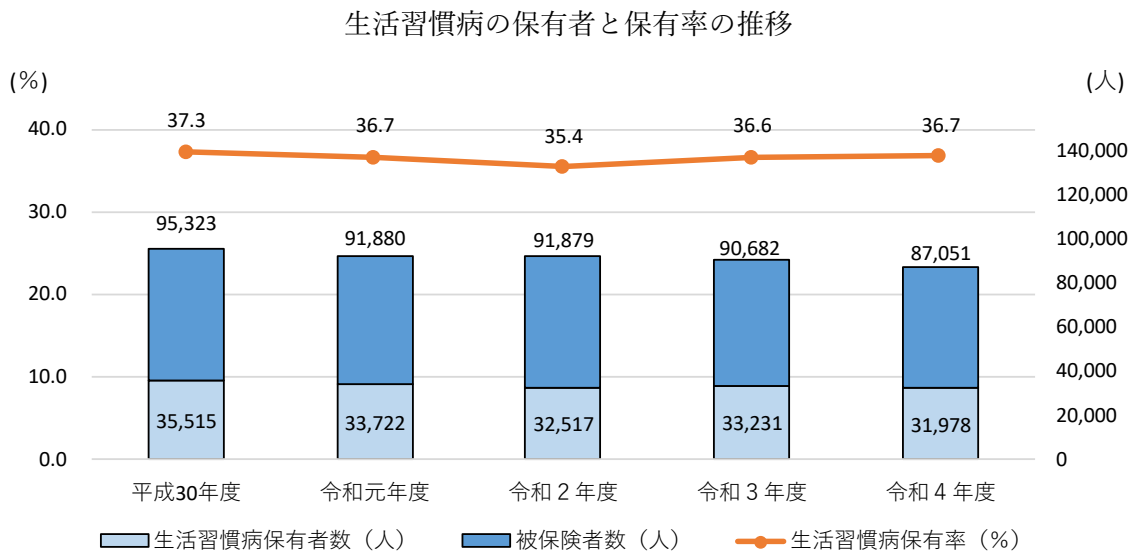
3 レセプトデータから見える本市の現状

(1) レセプトデータを用いた医療費等の分析について

ここでは、レセプトデータを分析することで、本市の現状をより深く見ていきます。レセプトデータから生活習慣病の関連疾患を抽出するに当たり、「生活習慣病一覧」(p34)の疾病分類を生活習慣病と定義しています。「生活習慣病一覧」は、KDB データの生活習慣病分類と概ね一致しています。

(2) 生活習慣病の保有者と保有率の推移

- ① 令和4年度の生活習慣病保有者は、平成30年度から3,537人減少し、31,978人となっています。
- ② 生活習慣病保有割合で見ると、平成30年度から令和2年度にかけて減少傾向にありましたが令和2年度以降は増加傾向にあります。



出典：「生活習慣病保有者数」レセプトデータ (医科)
「被保険者数」KDB 地域の全体像の把握

(3) 疾病細分類別の医療費

ここでは、レセプトデータを用いてICD-10(※)の分類別に医療費の分析を行い、どのような疾病が本市の医療費に影響を与えているかを確認します。レセプトとKDBデータでは、根拠としているデータが異なるので、総医療費等に差異があります。

① ICD-10 大分類別にみる医療費

大分類別に医療費を見ると、生活習慣病の関わりが深い「循環器系の疾患」が総医療費の18.2%を占めて1位となっています。また、「新生物<腫瘍>」が17.5%で2位、「腎尿路生殖器系の疾患」が9.5%で3位となっています。

疾病大分類別の医療費状況

大分類名	全体					
	医療費(円)	医療費割合(%)	被保険者1人当たり医療費(円)	患者数(人)	患者発生率(%)	患者1人当たり医療費(円)
循環器系の疾患	4,314,664,211	18.2%	49,565	21,372	27.6%	201,884
新生物<腫瘍>	4,148,295,453	17.5%	47,654	11,749	15.2%	353,076
腎尿路生殖器系の疾患	2,249,254,030	9.5%	25,838	9,309	12.0%	241,621
筋骨格系及び結合組織の疾患	2,003,083,442	8.5%	23,010	19,557	25.2%	102,423
精神及び行動の障害	1,877,222,587	7.9%	21,565	8,034	10.4%	233,660
内分泌、栄養及び代謝疾患	1,697,334,454	7.2%	19,498	15,637	20.2%	108,546
消化器系の疾患	1,312,656,083	5.6%	15,079	11,715	15.1%	112,049
損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,033,406,214	4.4%	11,871	9,065	11.7%	114,000
神経系の疾患	1,024,296,798	4.3%	11,767	4,432	5.7%	231,114
眼及び付属器の疾患	1,015,576,938	4.3%	11,666	21,295	27.5%	47,691
呼吸器系の疾患	939,113,544	4.0%	10,788	19,014	24.5%	49,391
皮膚及び皮下組織の疾患	394,962,414	1.7%	4,537	16,651	21.5%	23,720
感染症及び寄生虫症	348,475,703	1.5%	4,003	6,935	8.9%	50,249
特殊目的用コード	309,494,690	1.3%	3,555	8,110	10.5%	38,162
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	304,004,221	1.3%	3,492	1,113	1.4%	273,139
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	293,295,101	1.2%	3,369	7,437	9.6%	39,437
耳及び乳様突起の疾患	116,447,921	0.5%	1,338	4,658	6.0%	25,000
先天奇形、変形及び染色体異常	82,226,884	0.3%	945	521	0.7%	157,825
その他・未分類	74,401,621	0.3%	855	1,386	1.8%	53,681
周産期に発生した病態	62,786,240	0.3%	721	93	0.1%	675,121
妊娠、分娩及び産じょく	44,238,928	0.2%	508	321	0.4%	137,816
合計	23,645,237,477	100.0%	271,625	77,544		

出典：レセプトデータ(医科)

※ ICD-10 疾病及び関連保険問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems 世界保健機関（WHO）が作成した分類

② ICD-10 中分類別の上位 20 疾病

疾病細分類(ICD-10 中分類)別の上位 20 疾病では、「腎不全」が 1 位で、医療費が最も高額になっています。

また、「高血圧性疾患」4 位、「その他の心疾患」5 位、「糖尿病」6 位と、生活習慣病が上位にきています。

疾病細分類(ICD-10 中分類)別の上位 20 疾病

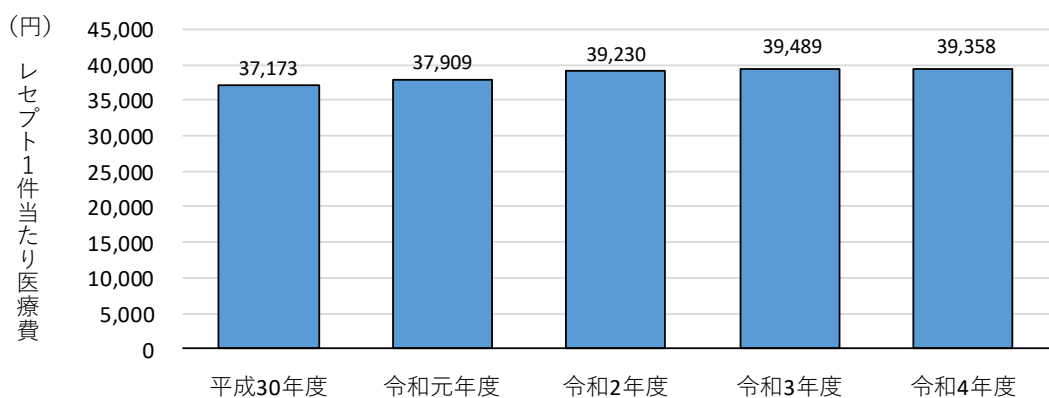
順位	疾病中分類名	医療費 (千円)	医療費 構成割合 (%)	患者数 (人)	患者発生率 (%)	患者1人 当たり医療費(円)
1	腎不全	1,680,873	7.1%	982	1.1%	1,711,683
2	その他の悪性新生物	1,334,182	5.6%	2,800	3.2%	476,494
3	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	1,152,809	4.9%	1,811	2.1%	636,559
4	高血圧性疾患	953,649	4.0%	16,528	19.0%	57,699
5	その他の心疾患	922,746	3.9%	2,675	3.1%	344,952
6	糖尿病	863,881	3.7%	6,475	7.4%	133,418
7	虚血性心疾患	700,641	3.0%	2,187	2.5%	320,366
8	気管, 気管支及び肺の悪性新生物	691,977	2.9%	1,135	1.3%	609,672
9	その他の消化器系の疾患	609,111	2.6%	6,373	7.3%	95,577
10	その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	572,238	2.4%	8,447	9.7%	67,745
11	その他の神経系の疾患	530,920	2.2%	3,424	3.9%	155,059
12	脳梗塞	518,234	2.2%	1,470	1.7%	352,540
13	骨折	508,379	2.2%	2,026	2.3%	250,927
14	脊椎障害(脊椎症を含む)	504,914	2.1%	6,133	7.0%	82,327
15	良性新生物及びその他の新生物	468,013	2.0%	5,519	6.3%	84,800
16	関節症	466,445	2.0%	5,246	6.0%	88,914
17	屈折及び調節の障害	448,946	1.9%	13,889	16.0%	32,324
18	結腸の悪性新生物	401,335	1.7%	1,486	1.7%	270,077
19	その他の眼及び付属器の疾患	386,085	1.6%	7,350	8.4%	52,529
20	その他の循環器系の疾患	381,029	1.6%	1,046	1.2%	364,272
上位20位以外		9,548,831	40.4%			
合計		23,645,237	100.0%			

出典：レセプトデータ(医科)

(4) レセプト1件当たり医療費の推移

- ① レセプト1件当たり医療費の算出方法は、レセプトデータを用いて、
医療費「医科（入院、入院外）+ 調剤」/レセプト件数：医科（入院、入院外）で算出しています。
- ② 本市の令和4年度のレセプト1件当たり医療費は、39,358円です。年度別推移をみると、平成30年度から令和3年度にかけて1回の診察等にかかる費用は年々増加していましたが令和4年については前年に比べ減少していることが分かります。

レセプト1件当たり医療費の推移



出典：レセプトデータ(医科、調剤)

(5) 高額レセプトの疾病傾向

レセプト1件当たり医療費は高額レセプトが大きく影響していると考えられます。

(本市では、1件当たり30万円以上と50万円以上の2つのパターンのレセプトを高額レセプトと定義して、現段階では算出しています。)

○50万円以上のレセプトについて

- ① 令和4年度の高額レセプトは、全レセプト件数の1.2%ですが、その医療費を合計すると総医療費の44.5%を占めています。
- ② 高額レセプト発生件数は、「その他の悪性新生物」(前立腺がん、卵巣がん、膀胱がん等)が最も多く、870件となっています。
- ③ 「疾病細分類(ICD-10中分類)別の上位20疾病」(p12)で医療費が1位だった「腎不全」については、高額レセプトの合計医療費では上位10疾病には該当していません。「腎不全」のレセプト1件当たりの医療費は、50万円未満であることが多いと考えられます。

上位10疾病の高額レセプト件数と合計医療費

順位	中分類名	全体		高額レセプト		高額レセプト割合	
		医療費 (千円)	レセプト 件数	医療費 (千円)	レセプト 件数	医療費	レセプト
1	その他の悪性新生物<腫瘍> (前立腺がん、卵巣がん等)	1,334,182	8,468	917,216	870	68.7%	10.3%
2	その他の心疾患 (うっ血性心不全、心房細動等)	953,649	9,554	755,050	373	79.2%	3.9%
3	虚血性心疾患	700,641	7,292	508,923	379	72.6%	5.2%
4	骨折	609,111	8,249	434,166	398	71.3%	4.8%
5	脳内出血	448,946	1,807	397,876	386	88.6%	21.4%
6	脳梗塞	508,379	6,041	391,983	372	77.1%	6.2%
7	気管、気管支及び肺の悪性新生物 <腫瘍>	530,920	2,899	370,531	353	69.8%	12.2%
8	その他の消化器系の疾患 (便秘症、逆流性食道炎等)	691,977	16,772	343,567	318	49.6%	1.9%
9	その他の循環器系の疾患 (腹部大動脈瘤、胸部大動脈瘤等)	401,335	2,885	330,209	145	82.3%	5.0%
10	脊椎障害(脊椎症を含む)	572,238	25,945	301,853	171	52.7%	0.7%
上位10疾病以外		16,893,859	688,201	5,776,934	5,795	34.2%	0.8%
合計		23,645,237	778,113	10,528,307	9,560	44.5%	1.2%

出典：レセプトデータ(医科)

○30万円以上のレセプトについて

- ① 令和4年度の高額レセプトは、全レセプト件数の2.5%ですが、その医療費を合計すると総医療費の60.4%を占めています。
- ② 高額レセプト発生件数は、「腎不全」が最も多く、3,972件となっています。
- ③ 30万円以上のレセプトでみると、50万円以上では見られなかった「腎不全」が最も高くなることが分かりました。

上位10疾病の高額レセプト件数と合計医療費

順位	中分類名	全体		高額レセプト		高額レセプト割合	
		医療費 (千円)	レセプト 件数	医療費 (千円)	レセプト 件数	医療費	レセプト
1	腎不全	1,680,873	6,373	1,552,708	3,972	92.4%	62.3%
2	その他の悪性新生物<腫瘍> (前立腺がん、卵巣がん等)	1,334,182	8,468	1,049,028	1,196	78.6%	14.1%
3	統合失調症, 統合失調症型障害 及び妄想性障害	1,152,809	15,433	918,522	1,847	79.7%	12.0%
4	その他の心疾患	953,649	9,554	787,393	453	82.6%	4.7%
5	虚血性心疾患	700,641	7,292	579,710	545	82.7%	7.5%
6	骨折	609,111	8,249	472,640	493	77.6%	6.0%
7	その他の消化器系の疾患	691,977	16,772	433,123	551	62.6%	3.3%
8	脳梗塞	508,379	6,041	424,295	454	83.5%	7.5%
9	脳内出血	448,946	1,807	414,265	427	92.3%	23.6%
10	気管, 気管支及び肺の悪性新生物 <腫瘍>	530,920	2,899	411,567	456	77.5%	15.7%
上位10疾病以外		15,033,750	695,225	7,238,124	8,819	48.1%	1.3%
合計		23,645,237	778,113	14,281,375	19,213	60.4%	2.5%

出典：レセプトデータ(医科)

4 腎臓病と人工透析患者

(1) 腎臓病の医療費の現状

「ICD-10 中分類別の上位 20 疾病」(p12) では、「腎不全」が最も医療費が高額であり、「腎不全」にともなう人工透析は本市の医療費に大きな影響があると考えられます。関連するデータを KDB データ、レセプトデータから見ていきます。

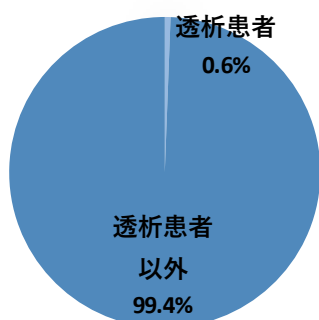
(2) 人工透析患者の医療費

- ① 令和4年度の国保被保険者のうち、レセプトがある人は、78,424 人で、そのうち人工透析患者は 466 人 (0.6%) です。
- ② 人工透析患者は、全患者の 0.6% ですが、人工透析患者にかかる医療費は、総医療費の 8.4 % を占めており、本市の医療費に大きな影響があることが分かります。
- ③ 人工透析患者の年間一人当たり医療費は、5,505,480 円で、人工透析を受けていない患者の医療費、359,930 円の 15.3 倍となっています。

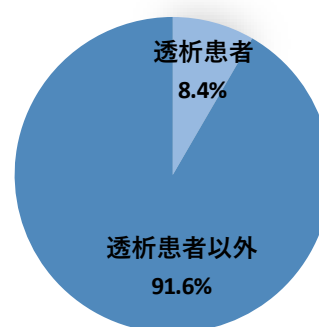
人工透析患者の患者数割合と医療費割合

	患者数 (人)	レセプト件数 (件)	合計医療費 (円)	患者一人当たり医療費 (円)
透析患者	466	16,799	2,565,553,568	5,505,480
透析患者以外	77,958	1,358,678	28,059,448,159	359,930

患者数割合



医療費割合



出典：レセプトデータ(医科、調剤)

(3) 男女別人工透析患者

令和4年度のレセプトがある人は、男性 34,947 人、女性 43,477 人と女性の方が多いですが、そのうち人工透析患者については、男性 326 人、女性 140 人と男性の方が多くなっています。

男女別人工透析患者数

男性

	患者数 (人)	レセプト件数 (件)	合計医療費 (円)	患者一人当たり医療費 (円)
透析患者	326	11,405	1,809,307,593	5,550,023
透析患者以外	34,621	572,781	14,071,774,398	406,452

女性

	患者数 (人)	レセプト件数 (件)	合計医療費 (円)	患者一人当たり医療費 (円)
透析患者	140	5,394	756,245,975	5,401,757
透析患者以外	43,337	785,897	13,987,673,761	322,765

出典：レセプトデータ(医科、調剤)

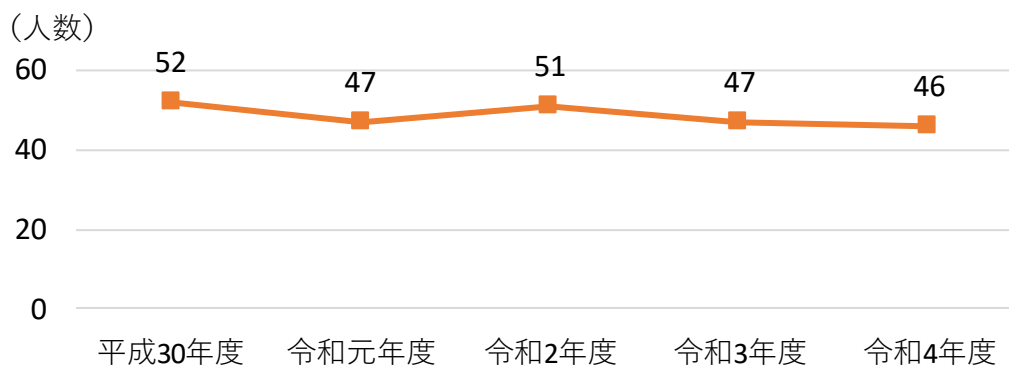
(4) 新規人工透析導入者数

新規人工透析導入者数は、平成30年度から増減はありますが、全体としては横ばいで推移しており、令和4年度では46人となっています。

新規人工透析導入者数の推移

(人)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
52	47	51	47	46

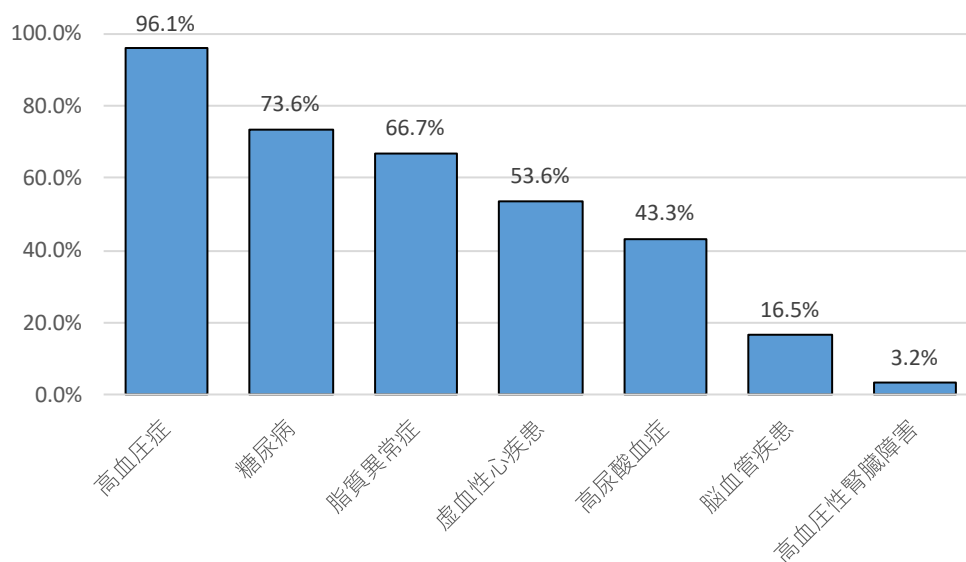


出典：横須賀市データ

(5) 人工透析患者と生活習慣病患者の関連

人工透析患者における併存疾患の既往割合は、高血圧症が一番高く 96.1%、次いで糖尿病が 73.6%、脂質異常症が 66.7%となっています。

人工透析患者の併存疾患



併存疾患名	患者数	既往割合
高血圧症	448	96.1%
糖尿病	343	73.6%
うち糖尿病性腎症	68	14.6%
脂質異常症	311	66.7%
虚血性心疾患	250	53.6%
高尿酸血症	202	43.3%
脳血管疾患	77	16.5%
高血圧性腎臓障害	15	3.2%

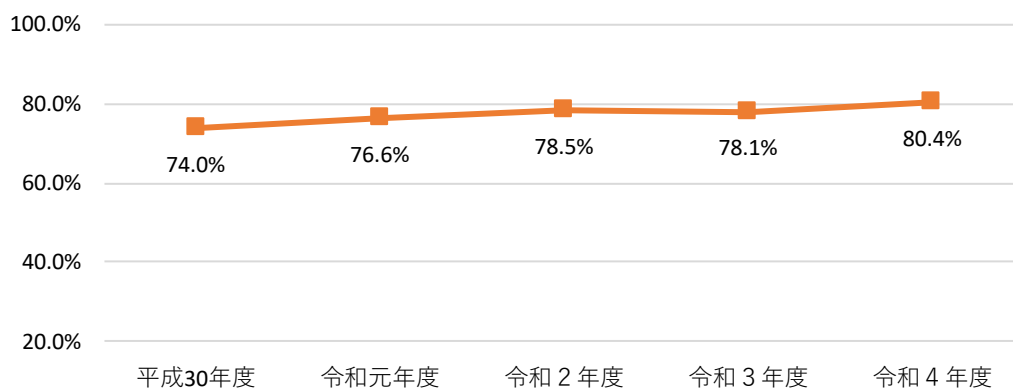
出典：レセプトデータ(医科)

5 ジェネリック医薬品使用状況

ジェネリック医薬品使用率の推移

ジェネリック医薬品の使用率（医科、調剤）の推移をみると、使用率は増加傾向にあり、令和4年度では80.4%です。国の目標値である80%を超えています。

ジェネリック医薬品使用率の推移



(各年度3月末時点)

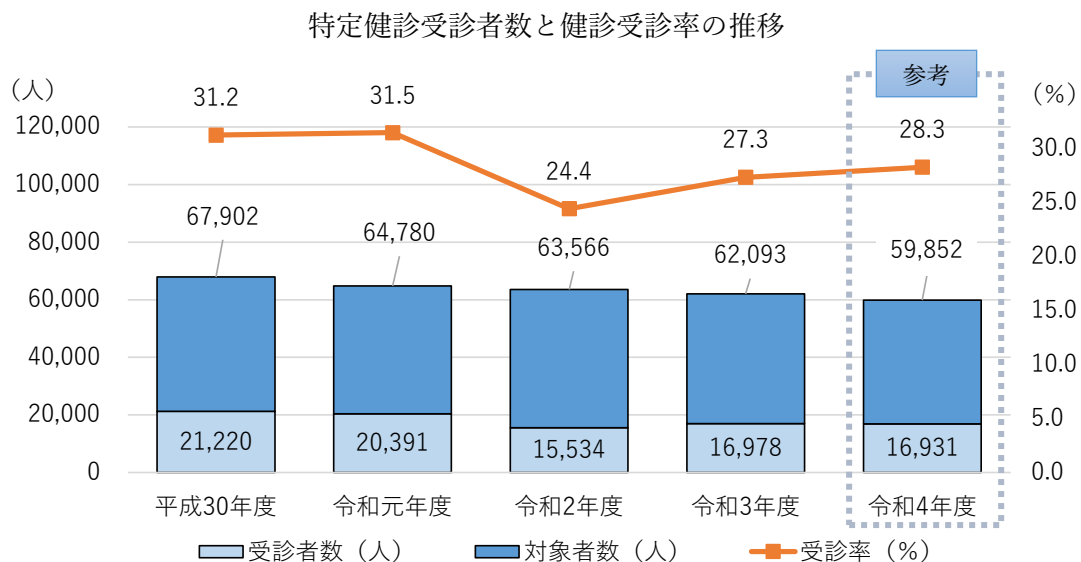
年度	総数量	ジェネリック数量	使用率
平成30年度	6,694,564.2	4,955,983.4	74.0%
令和元年度	6,573,130.1	5,032,019.9	76.6%
令和2年度	6,484,456.9	5,091,511.9	78.5%
令和3年度	6,430,723.3	5,023,530.4	78.1%
令和4年度	6,217,373.9	4,999,150.6	80.4%

出典：国保総合システム 数量シェア集計表（医科、調剤）

6 特定健診の状況

(1) 特定健診受診率の状況※

- ① 特定健診受診者数は平成 30 年度から令和 3 年度にかけて 4,242 人減少しており、令和 3 年度では、16,978 人となっています。
- ② 特定健診対象者数は平成 30 年度から令和 3 年度にかけて 5,809 人減少しており、令和 3 年度では、62,093 人となっています。国保加入者の減少が影響していると考えられます。（p 2 「人口・国保被保険者・国保加入率の推移」参照。）
- ③ 特定健診受診率は平成 30 年度から令和元年度にかけて増加傾向にありましたが、令和 2 年度に 7.1 ポイント落ち込んでいます。それ以降再び増加傾向に転じています。



※令和 4 年度については 7 月時点での数値を使用しております。

(2) 他自治体等との受診率の比較

令和3年度の特定健診受診率は、県、国、同規模自治体を下回っています。令和4年度の受診率については、現時点で分かっている速報値を掲載しております。

他自治体等との受診率の比較

	平成30年度 (%)	令和元年度 (%)	令和2年度 (%)	令和3年度 (%)	令和4年度 (%)
横須賀市	31.2	31.5	24.4	27.3	28.3
神奈川県	29.0	29.1	25.7	28.0	
国	37.5	37.6	33.5	36.1	
同規模自治体	37.3	36.8	34.1	35.8	

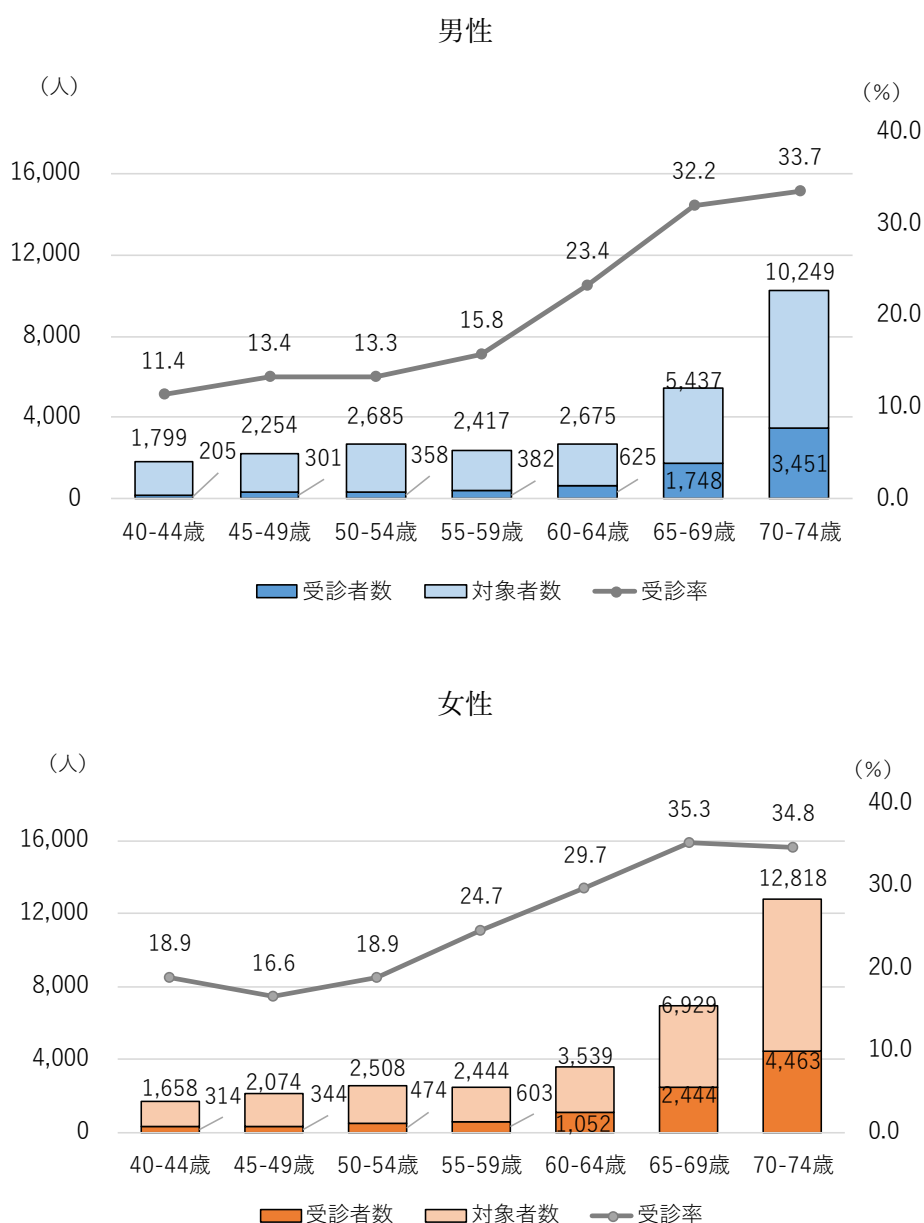
出典：法定報告値、KDB 地域の全体像の把握

※令和4年度については7月時点での数値を使用しております。

(3) 特定健診受診率の性・年齢階層別比較

- ① 令和4年度の特定健診の受診率は、男性は年齢が上昇するにつれて増加しています。女性は65～69歳代が最も受診率が高く、全ての年代において女性の受診率が男性の受診率を上回っています。
- ② 男女ともに65歳以上で受診率が30%を超えています。一方、男性の40-44歳では受診率が11.4%であり、最も低くなっています。

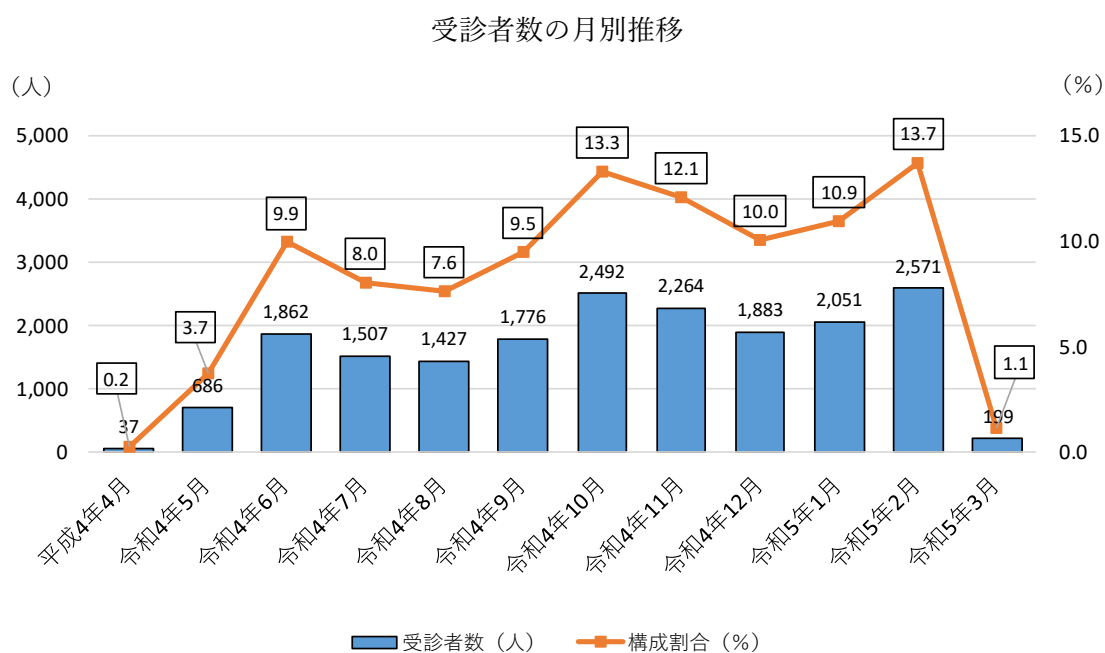
特定健診受診率の性・年齢階層別比較



出典：KDB健診・医療・介護データからみる地域の健康課題

(4) 特定健診受診者数の月別推移

- ① 特定健診は5月～翌年2月の期間で実施しており、4月と翌年3月の受診者数については、他健診結果（人間ドック・事業者健診）の読み替え分と見て取れます。
- ② 受診券を送付した翌月の6月、季節の変わり目である10月、実施期間の最終月で駆け込み受診と思われる2月の受診数が多くなっていることがわかります。



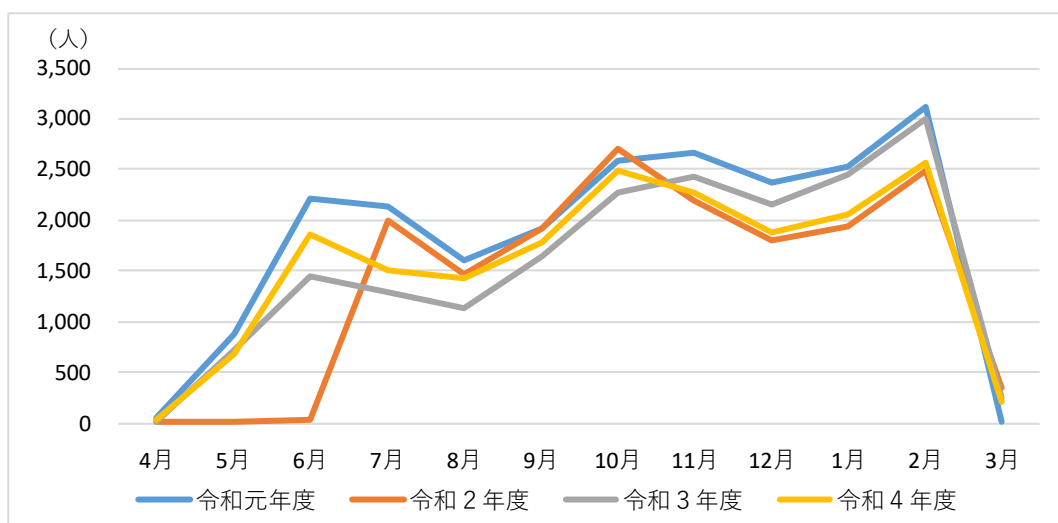
出典：特定健診データ

(5) 特定健診受診者数の経年推移

令和2年度の5、6月は新型コロナウイルス感染症流行に伴い、健診を中止していたため、令和2年度の6月と令和4年度の6月を比較すると、1,824人の差があります。

〔令和2年度5、6月の受診者数については、他健診結果（人間ドック・事業者健診）の読み替え分と見て取れます。〕

受診者数の月別推移（年度別）



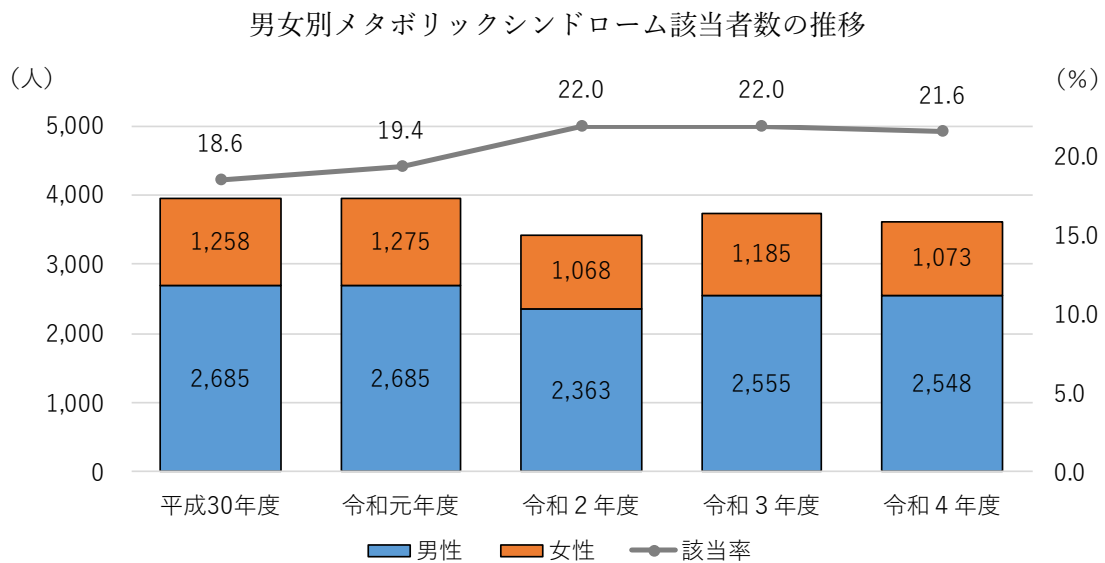
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
4月	60	4	20	37
5月	872	13	713	686
6月	2,223	38	1,440	1,862
7月	2,140	2,003	1,283	1,507
8月	1,598	1,461	1,140	1,427
9月	1,918	1,919	1,651	1,776
10月	2,581	2,703	2,282	2,492
11月	2,665	2,189	2,426	2,264
12月	2,377	1,806	2,159	1,883
1月	2,533	1,946	2,441	2,051
2月	3,125	2,494	3,002	2,571
3月	17	351	248	199
合計	22,109	16,927	18,805	18,755

(6) メタボリックシンドロームについて

特定健診受診者の健診結果から、有所見者についての把握を行います。

メタボリックシンドローム該当者数の推移

特定健診受診者のうち、メタボリックシンドロームに該当した人の数は、男性が女性より2倍以上多くなっています。男女ともにメタボリックシンドローム該当者は、平成30年度から令和2年度にかけて増加傾向でしたが、令和2年度以降については、横ばいに推移しています。



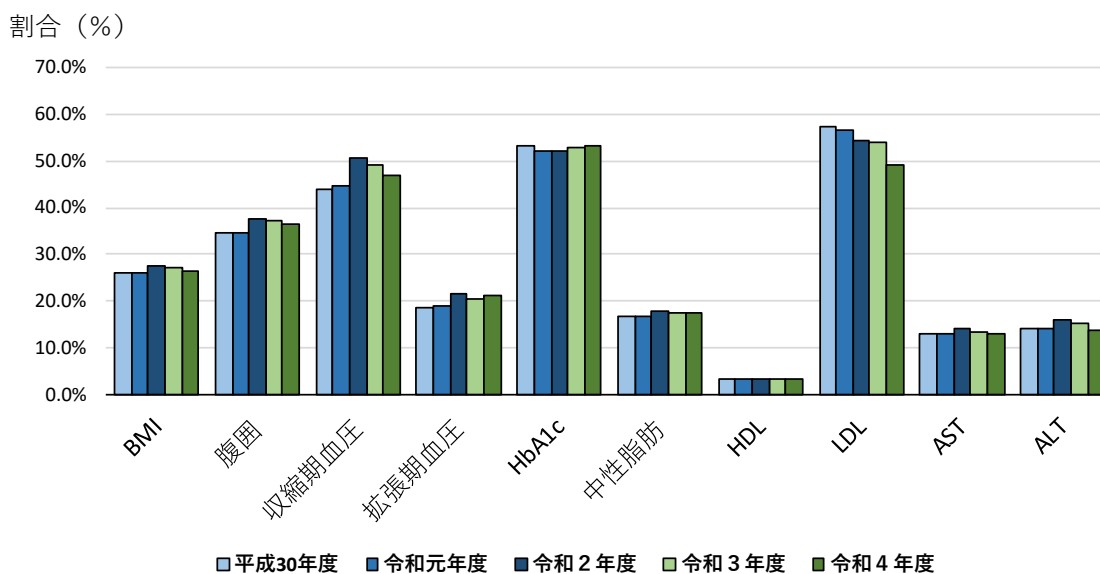
出典：KDB健診・医療・介護データからみる地域の健康課題

(7) 特定健診受診者の結果について

① 各健診項目の値から特定保健指導判定値を超えた人の割合

各健診項目の値から特定保健指導判定値を超えた人の割合を見ると、LDL コレステロールの有所見者割合が平成 30 年度以降減少傾向にありますが、令和 4 年度で見ても 49.2%と約半数の人が該当しています。また、HbA1c の有所見者割合は 50%以上と横ばいに継続しており、他の値よりも高止まりが続いています。よって、引き続き糖尿病や脂質異常症への移行に注意が必要です。

各健診項目の値から保健指導判定値を超えた人の割合



出典：特定健診データ

保健指導・受診勧奨判定値

検査項目	保健指導判定値	受診勧奨判定値
BMI	25.0以上	
腹囲	男性：85cm以上	
	女性：90cm以上	
収縮期血圧	130mmHg以上	140mmHg以上
拡張期血圧	85mmHg以上	90mmHg以上
HbA1c	5.6%以上	6.5%以上
中性脂肪	150mg/dl以上	300mg/dl以上
HDL	39mg/dl以下	34mg/dl以下
LDL	120mg/dl以上	140mg/dl以上
AST	31U/l以上	51U/l以上
ALT	31U/l以上	51U/l以上

② 特定健診受診者の、高血圧、糖尿病、脂質リスク（受診勧奨判定値）

令和元年度の特定健診受診者におけるリスクフローチャートを示しました。

「3疾病受診あり」は「高血圧」、「糖尿病」、「脂質異常症」のいずれかで、医療機関を受診している人です。

a 高血圧リスクフローチャート

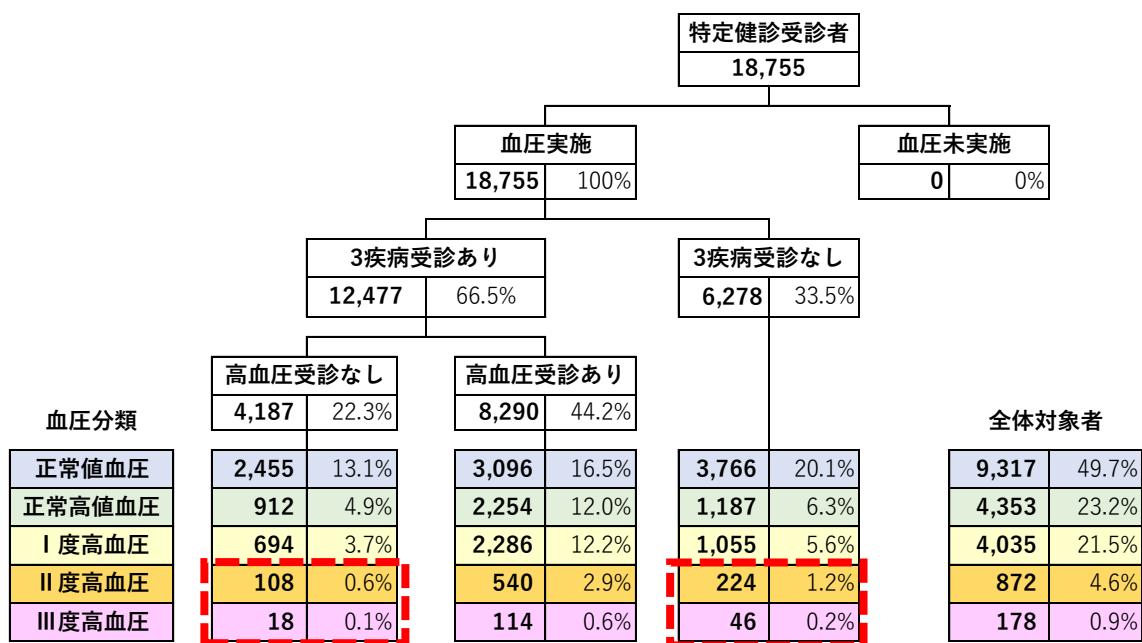
特定健診受診者のうち、高血圧での受診がない「Ⅱ度高血圧」、「Ⅲ度高血圧」の人は、

Ⅱ度高血圧 = 108人 + 224人 = 332人

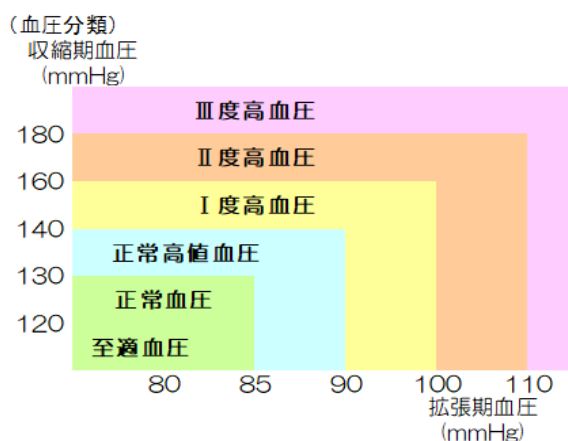
Ⅲ度高血圧 = 18人 + 46人 = 64人

となっており、計 396 人の未受診の方がおり、医療機関への受診勧奨の必要性が考えられます。また、高血圧の治療中の人でも「Ⅱ度高血圧」が 540 人、「Ⅲ度高血圧」が 114 人います。

高血圧リスクフローチャート



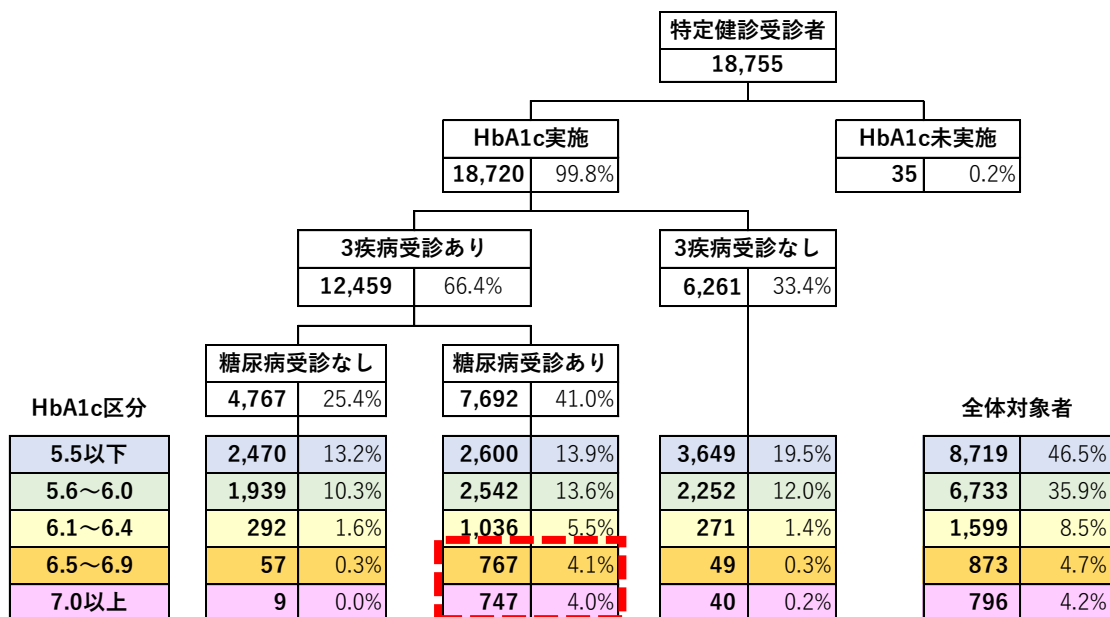
出典：レセプトデータ（医科）、特定健診データ



b 糖尿病リスクフローチャート

糖尿病のリスクについては、糖尿病受診ありで、HbA1c 値が 6.5 以上の人が、767 人 + 747 人 = 1,514 人となっています。年齢によっては、HbA1c の目標値が 6.5 よりも高く設定されることもあり一概には言えませんが、既に糖尿病の治療をしている人への支援（糖尿病性腎症重症化予防事業）も重要であると考えられます。

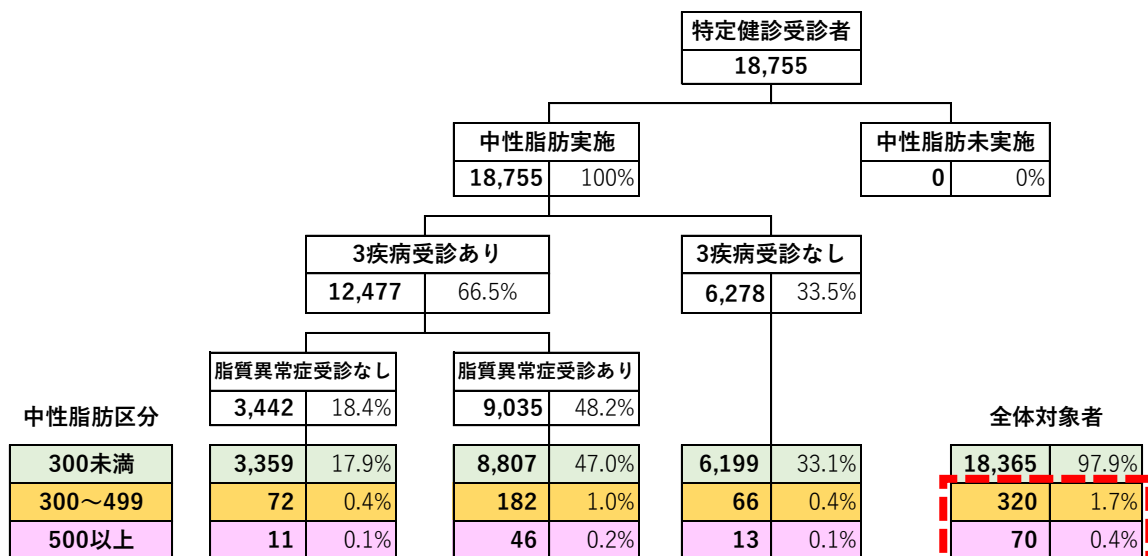
糖尿病リスクフローチャート



c 脂質異常症リスクフローチャート

中性脂肪区分が 300 以上の人が、全体対象者の中で、320 人+70 人=390 人となっております。高血圧、糖尿病と比べて総数も少なく、抽出基準が適当であるか等の課題があると考えます。

脂質異常症リスクフローチャート



出典：レセプトデータ（医科）、特定健診データ

③ CKD病診連携システム

横須賀市医師会や腎臓専門医と協働して、腎機能低下が疑われる特定健診受診者を早期に腎臓専門医への受診に結び付け、腎臓専門医とかかりつけ医が連携して診療する仕組みを構築することで、CKDの重症化を防ぎ、新規人工透析導入者数を抑制します。

1 事業概要

- (1) 特定健診の結果から直接、腎臓専門医に紹介。
- (2) 医療機関の受診の有無に関わらず、判定基準に該当すれば紹介。

2 紹介基準

- (1) 下記図赤色部分 (G3b～G5)該当者は紹介
- (2) 下記図黄色部分 (G1～ G3a)該当者は、①または②に該当したら紹介
 - ①血糖：空腹時血糖 126 mg/dl 以上、または HbA1c 6.5%以上
 - ②血圧：収縮期 140mmHg 以上、または拡張期 90mmHg 以上

3 実績

- (1) 382 人/742 人 (精密検査結果受理件数/紹介基準該当者)
- (2) 精密検査実施率：51.5%

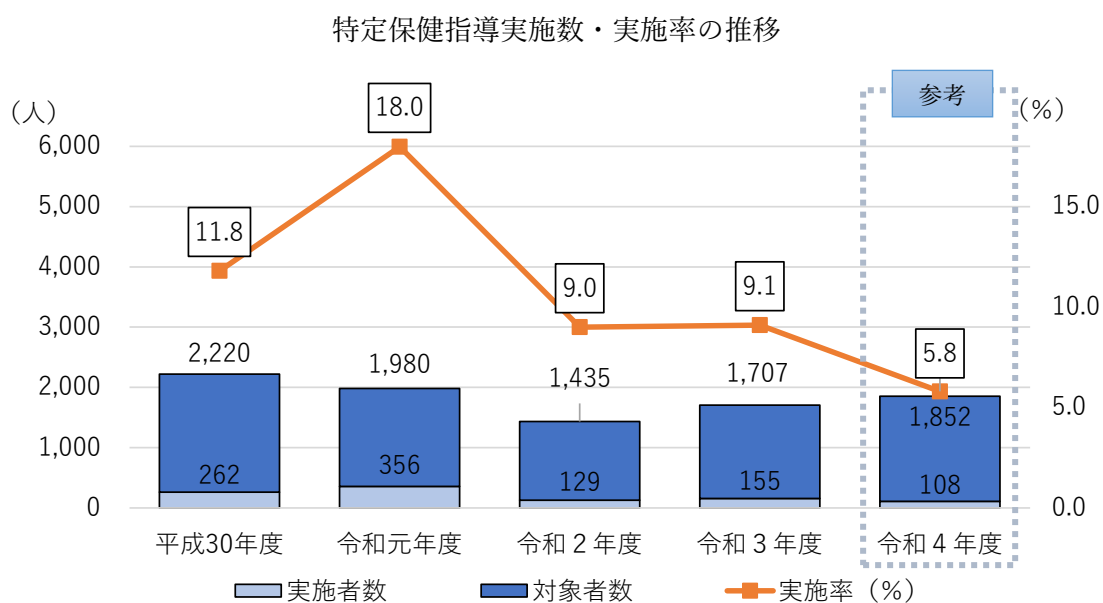
CKD病診連携システム実績

		蛋白尿区分		A1	A2	A3	尿検査 未実施	合計
				正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿		
		尿蛋白定性		(-)	(±)	(+～)		
GFR区分	G1	正常または 高値	90≦	0	0	12	-	12
	G2	正常または 軽度低下	60～89	1	1	86	-	88
	G3a	軽度～ 中等度低下	45～59	0	58	62	-	120
	G3b	中等度～ 高度低下	30～44	108	8	28	-	144
	G4	高度低下	15～29	3	2	12	-	17
	G5	末期腎不全	<15	0	0	1	-	1

7 特定保健指導の状況

(1) 特定保健指導実施率の推移※

- ① 令和3年度の特定健診受診者 16,978 人のうち、特定保健指導対象者は 1,707 人であり、特定健診受診者の 9.1%が特定保健指導対象者となっています。
- ② 特定保健指導対象者 (1,707 人) のうち 155 人が利用しています。特定保健指導の対象者は平成 30 年度から令和 2 年度まで減少傾向にありましたが、令和 2 年度以降は増加傾向にあります。
- ③ 特定保健指導実施率は、過去 5 年で令和元年度は 18%と最も高くなっていますが、令和 2 年度以降については、10%を下回っている状況です。

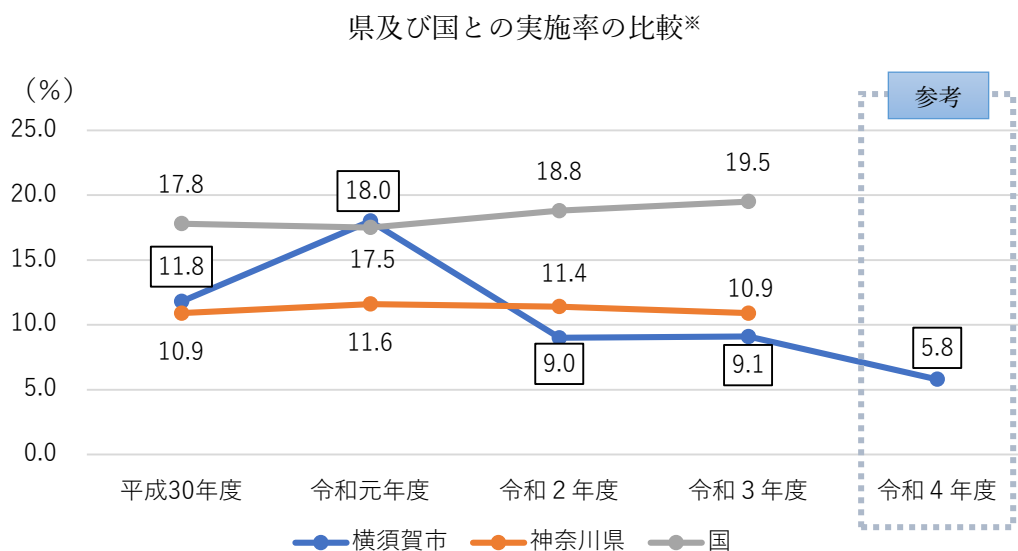


出典：法定報告値

※令和4年度については7月時点での数値を使用しております。

(2) 県及び国との実施率の比較

特定保健指導の実施率を県・国と比較すると、令和元年度に県・国を上回る実施率となりましたが、令和2年度と令和3年度についてはともに県・国を下回る実施率となりました。

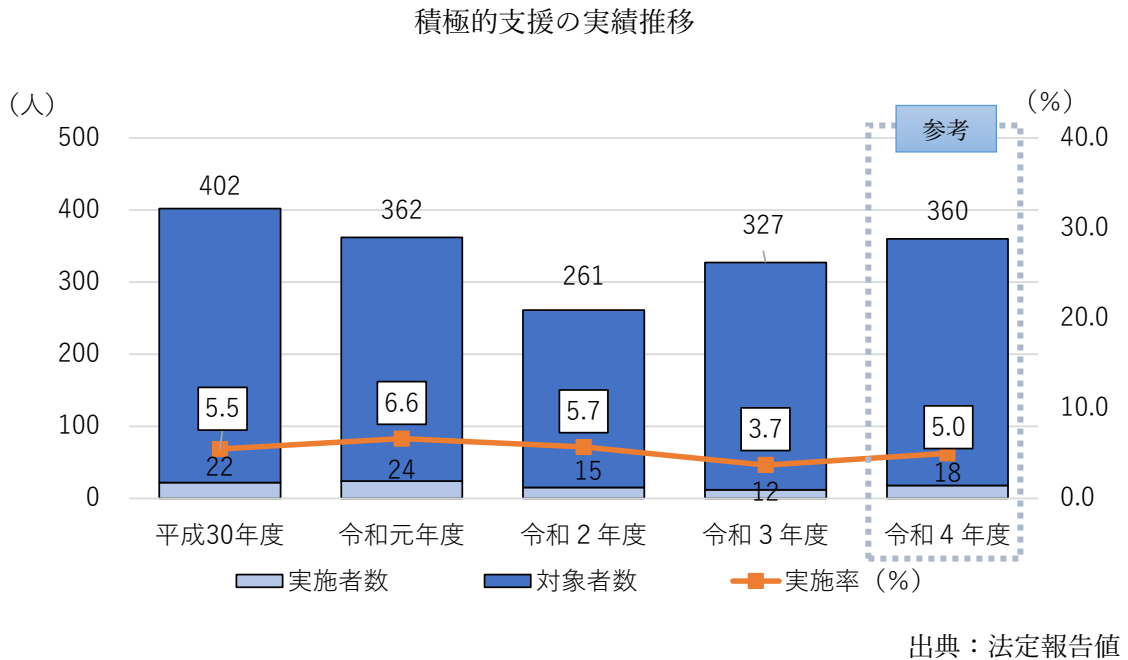
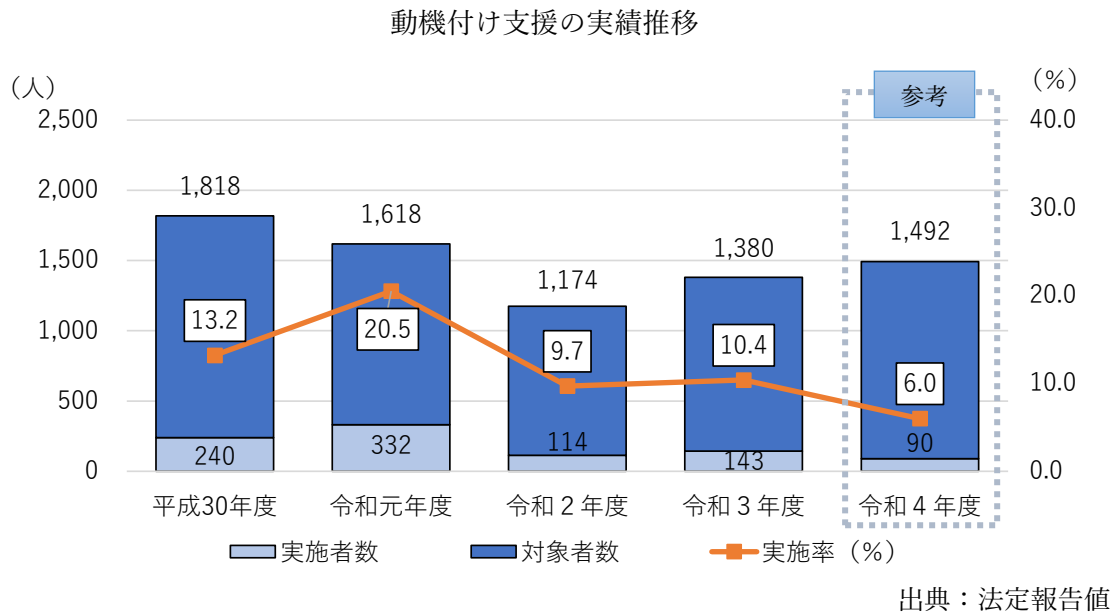


出典：法定報告値（横須賀市、神奈川県）
特定健診・特定保健指導の実施状況（厚生労働省）（国）

※令和4年度については7月時点での数値を使用しております。

(3) 動機付け支援・積極的支援毎の実績推移*

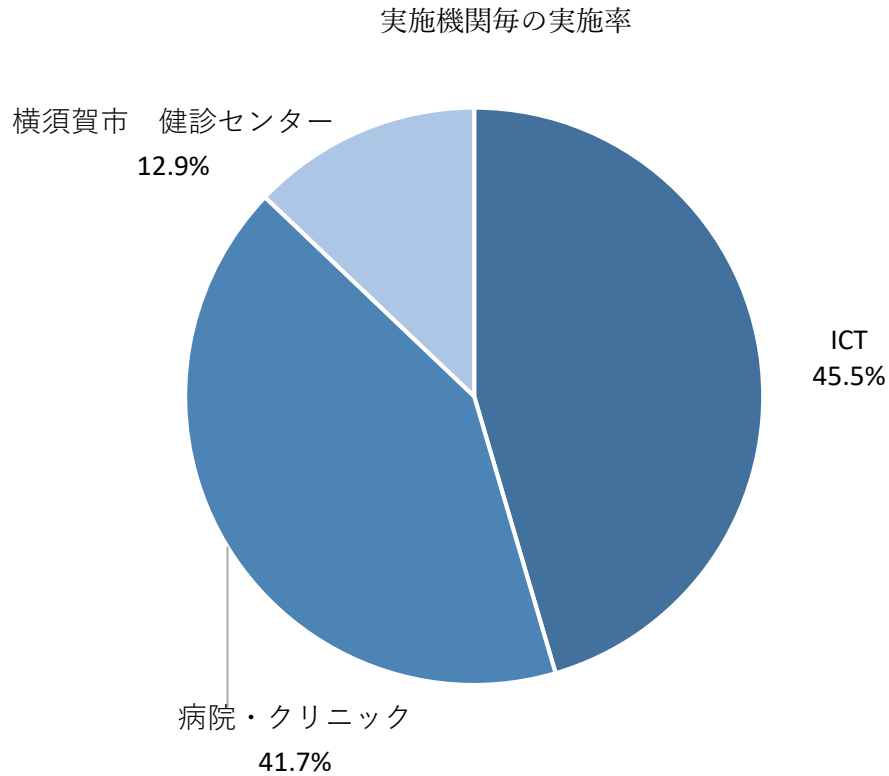
動機付け支援、積極的支援の対象者数は、令和2年度を境に、減少傾向から増加傾向に転じています。実施率について、積極的支援に比べて動機付け支援の対象者が高くなっています。



※令和4年度については7月時点での数値を使用しております。

(4) 特定保健指導実施機関別の実施率

特定保健指導実施機関別の実施率を比較すると、ICT が、全実施者の 45.1%を占めています。



出典：特定健診データ、保健指導データ

※参考

順位	実施機関名	実施者数 (人)	構成割合 (%)
1	ICT	60	45.5%
2	病院・クリニック	55	41.7%
3	横須賀市 健診センター	17	12.9%
	合計	132	

資料

生活習慣病一覧

分析用病名	ICD10	疾病分類名
高血圧性疾患	I10	本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)
	I11	高血圧性心疾患
	I12	高血圧性腎疾患
	I13	高血圧性心腎疾患
	I15	二次性<続発性>高血圧(症)
糖尿病	E11	インスリン非依存性糖尿病<NIDDM>
	E12	栄養障害に関連する糖尿病
	E13	その他の明示された糖尿病
	E14	詳細不明の糖尿病
脂質異常症	E78	リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の脂(質)血症
脳血管疾患	I60	くも膜下出血
	I61	脳内出血
	I62	その他の非外傷性頭蓋内出血
	I63	脳梗塞
	I64	脳卒中, 脳出血又は脳梗塞と明示されないもの
	I65	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの
	I66	脳動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの
	I67	その他の脳血管疾患
	I68	他に分類される疾患における脳血管障害
	I69	脳血管疾患の続発・後遺症
虚血性心疾患	I20	狭心症
	I21	急性心筋梗塞
	I22	再発性心筋梗塞
	I23	急性心筋梗塞の続発合併症
	I24	その他の急性虚血性心疾患
	I25	慢性虚血性心疾患
動脈疾患	I71	大動脈瘤及び解離
	I72	その他の動脈瘤
	I74	動脈の塞栓症及び血栓症
	I77	動脈及び細動脈のその他の障害
	I79	他に分類される疾患における動脈, 細動脈及び毛細血管の障害
肝疾患	K70	アルコール性肝疾患
	K76	その他の肝疾患
腎不全	N17	急性腎不全
	N18	慢性腎不全
	N19	詳細不明の腎不全
COPD	J43	肺気腫
	J44	その他の慢性閉塞性肺疾患
高尿酸血症および痛風	E79	高尿酸血症
	M10	痛風